甲斐市立敷島小学校　自己評価書

令和５年１月３０日　（月）　作成

校長　「　内藤　和彦　」　　記述者　職名（教頭）「　武田　真弓　」

学校教育目標「　**知・徳・体の調和のとれた　人間性豊かな子どもの育成**　」

学校経営方針

教育諸法の精神を基に、山梨県及び甲斐市の教育方針に則り、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の知・徳・体をバランスよく育てることが大切である。

そのために、本校職員は家庭・地域社会と連携し、教育者としての使命感をもち、自己研鑽に励むとともに、一致協力して本校教育目標の具現化に努める。

１　全体評価

（１）教職員自己評価について

「やさしく・かしこく・すこやか」を目指す児童像に掲げ、校長を中心に、チーム敷島小として協働し研鑽を積んできた。今年度の教職員自己評価も、全ての項目で肯定的な回答が９０％を上回る結果となっている。しかし、この結果に甘んじることなく、更なる向上を目指して改善を重ねる。

（２）小学生アンケートについて

「学校は楽しいですか」の肯定的な回答が８９％となり、ほとんどの児童が学校生活に満足している様子が分かる。学習や学校生活についての設問でも肯定的な回答が９０％を上回るものが多く、学校生活が充実したものであることがうかがえる。一方、健康的な生活や積極的な行動等を問う設問では、課題も見えている。指導方法を工夫し改善を図る必要がある。

（３）保護者アンケートについて

「お子さんと学校のことについて会話をしていますか」の肯定的な回答が９４％に上った。児童の学校での様子に高い関心を持ち、家庭で日常的に学校について話し合われていることが分かる。また、「お子さんにとって学校は楽しい所だと思う」と答えた保護者は８９％に上った。好意的な評価である。一方、僅かではあるが「そう思わない」という回答もあった。様々な角度から児童の状況を把握し支援していく必要がある。

２　項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

Ⅰ　学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	どの項目においても肯定的な意見が９５％を超える高い数値となった。「学校目標をもとに学校教育活動を行っている」という設問のＡ回答が一番高い数値となっていることから、教職員が学校教育目標をよく理解し、それに沿った教育活動を行ってきたことが分かる。今後の改善ポイントとしては「PDCA サイクルを生かした教育活動」が挙げられる。昨年に比べＡ回答が 10 ポイントほど上昇しており一定の改善があったと考えられるが、4 つの項目の中ではＢ回答が一番多かったので、まだ改善の余地がある。
改善策	**【PDCA サイクル】**大きな行事の時には組織的に PDCA サイクルに取り組んでいる。引き続き振り返りを大切にして、その結果を次の改善につなげていきたい。毎日の授業や学年の行事など、日常の中でも PDCA サイクルを回すことができると、より効果を実感することができる。そのためには、準備や振り返りを行う時間の確保、簡易なサイクルの導入、習慣化などが必要である。

Ⅱ　学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	８項目の内、6 項目で肯定的な意見が１００％となった。この結果から、本校の教職員は、主体的に学校運営に関わっていると言える。ほとんど項目において A 回答が昨年よりも上昇している。業務を効率化し、改革を進めていこうとする意識も浸透してきているが、工夫を重ね、更に推進していく。 学校運営に関わる項目の保護者アンケートでは、昨年より若干数値が下がっているものが多い。感染症や体育館改修工事、行事の精選などにより、学校の活動に触れる機会が少し減ったことが影響しているのではないか。
改善策	**【業務の効率化と働き方改革】**インターネットバンキングや多様な機能を持つメールシステムの導入などを行い、ICT を活用した業務の効率化に取り組む。 **【ICT の活用力向上】**校内研修や校内研究、市の授業力養成講座等の研修を通して、教職員の ICT 活用力の更なる向上を図る。 **【保護者に向けて】**積極的な情報発信を引き続き行う。学校 HP・たより・メール等を活用し学校の活動を発信するとともに、忙しい保護者にもわかりやすい伝え方を工夫していく。
Ⅲ　学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	学習指導に関する設問では、全ての項目で肯定的な回答の割合が９５％を上回っている。学びの意欲を喚起する授業や個に配慮した授業を行い、よい学習習慣をつける指導に意識して取り組んできている結果であると考える。一方、ICT を活用した学習指導や協働的な学びを取り入れた学習指導については、僅かに B 回答が多かった。今年度は校内研究で ICT を活用することができる場面を洗い出しており試行錯誤の段階にあること、感染症の予防対策をしながら学習活動を行っていることで慎重な対応をしていることが影響しているのではないかと思われる。 小学生アンケートでは、「先生はよく勉強を教えてくれる」「国語の授業内容がわかる」が９７％と、非常に高い数値となっている。算数の授業内容も９０％が「わかる」と回答している。一方で、「分からないことがあったら先生に聞いていますか」「人前でしっかりと意見を言うことができますか」の設問で肯定的な回答が７０％台とやや低い。 保護者アンケートでは、「学校は熱心に授業に取り組んでいる」「お子さんは授業の内容が分かっている」がどちらも８７％であり、好意的な評価となっている。一方「宿題以外の家庭学習に取り組んでいますか」という設問の肯定的な回答が６１％とやや低い。
改善策	**【授業づくり】**児童の興味関心に応え主体的に学習を行うことができる一人一台端末を活用した授業や、「やまなしスタンダード」で求められるめあてとまとめを明確化した分かる授業を実践していく。また、自分なりの考えを安心して表現することができる居場所がある学級づくりや学びの土台づくりをしっかりと行い、児童の自発的な発言を引き出す。 **【家庭学習】**宿題をしっかりしている児童が９２％と大変多く、宿題に対する家庭の支援が得られている。家庭学習の手引きを活用して家庭と連携し、宿題以外の学習をする大切さや学習のポイントを保護者と再確認することで、家庭学習の取組を広げていきたい。
Ⅳ　生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	規範意識を問う設問については、教職員の自己評価・小学生アンケートとも肯定的な回答が９５％を超えている。このことから、児童が学校で安心して過ごせる環境をつくるため全教職員が努力しており、その指導が児童に浸透していることが分かる。一方、保護者アンケートでは、「学校は、子どもの間違った行動などに対して指導していると思う」という設問の肯定的な回答が８０％で、教職員や児童よりもやや少なくなっている。 児童理解に関する設問では、児童理解のため児童とコミュニケーションを取っている教員・「困ったときに相談できる先生がいる」と回答している児童ともに高い割合となっている。一方、保護者の「困ったことがあったら相談できる先生がいる」の肯定的な回答の割合は７３％で、児童の回答よりもやや低くなっている。

改善策	**【規範意識】**アンケートの結果から、児童が高い意識を持っていることが分かった。しかし実際の行動が伴っていない場面もあるため、正しい行動ができるように引き続き指導していく。共通理解のもとに指導することが大切なので、保護者への連絡や相談を確実に行う。 **【児童理解】**「だれひとり取り残さない」をキーワードに、きめ細かな支援を行う。教職員が児童や保護者の相談に応じるのはもちろんのこと、スクールカウンセラーを積極的に活用して、相談体制を整える。
Ⅴ　地域との連携について	
達成状況	教職員自己評価では、どの設問も肯定的な回答が高い割合となっている。本校では地域や保護者との連携に努めながら教育活動を行っているといえる。昨年に引き続き、コロナ禍による活動制限があったため、地域人材の活用についてはＢ回答が多かった。 保護者アンケートでは、「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」という設問の肯定的な回答は８５％であった。一方で、「学校は、保護者地域の声に耳を傾けている」と回答した保護者が７３％、「PTA 活動に積極的に参加している」と回答した保護者が７０％という結果であった。
改善策	**【地域との連携】**今年度も、MEET を活用して地域と学校を結んだ学習をするなど工夫を重ねてきた。今後も地域の施設等の利用制限があるかもしれないが、その中でも ICT を活用したり場の設定を工夫したりしてつながりを保っていけるようにする。地域人材の活用も同様である。 **【保護者との連携】**学校の教育活動を行っていくためには保護者との強固な信頼関係が欠かせない。保護者の声に誠意を持って向き合い、日頃からコミュニケーションを取って信頼関係の構築に努める。PTA 活動については、今年度も感染症対策を行いながらのものであった。来年度は、今年度の状況をもとに、必要な PTA 活動を精選し計画していきたい。保護者と協議して、負担軽減を考慮しながら参加しやすい活動にする。
Ⅵ　学校の特色に関して	
達成状況	「学校行事」「ファミリータイム」の活動など、どの項目も高い肯定率であった。特に学校行事に対しては、１００％の教職員が力を入れて指導することができたとの回答であった。保護者アンケートでは、「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」という設問に肯定的な回答をしている割合が８９％に上った。
改善策	今後も児童が学校生活に意欲を持って取り組むことができるよう楽しい行事を計画･実施していく。また、行事を通して教職員と児童・児童相互の絆を深め、心を育むことができるよう目的や目標を明確にした活動を行う。
Ⅶ　創甲斐教育について	
達成状況	教職員の自己評価では、どの設問も肯定的な意見が 95％を超えていた。「創甲斐教育」について教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。 国語教育については、小学生アンケート・保護者アンケートともに、家での読書時間が３０分未満かそれより少ないと答えている割合が多い。 健康・体力の向上については、朝ご飯を食べている割合や手洗いうがいをしている割合が９６～９７％と非常に高くなっている。保護者の協力の下、健康的な生活を送っている様子が分かる。一方、ゲーム等の時間が長い、就寝時刻が遅い児童が見られる。
改善策	**【国語教育】**基礎的な言語事項の指導を継続して行う。学校では、図書の貸し出し数も多く、よく本を読んでいる。たくさんの文章を読み理解する力は学習には欠かせないものである。本好きな子どもを増やすことができるよう、家庭とも連携して読書活動を推進する。 **【健康・体力の向上】**今年度も児童会活動で健康チェックを行ったり、ファミリー活動で運動を行ったりした。引き続き健康な生活を送るための知識や実践力をつける指導をしていく。また、家庭と連携して、ゲーム等の時間や就寝時刻を見直すとともに、健康に配慮した生活の習慣化を図る。

３　まとめ

〈成果〉

・教職員自己評価、保護者アンケート、小学生アンケートとも、全体的に肯定的に評価されていた。このことから、今年度は、学校教育目標を達成することができたのではないかと考える。

〈課題〉

・このアンケートに表れた評価の一つ一つを真摯に受け止め、さらに改善を重ね、本校の教育を向上させていく。保護者・地域と連携を図りながら、「やさしく・かしこく・すこやか」な児童の育成に全職員一丸となって取り組む。